

2021年9月

校歌の持つ力

＝青春かながわ校歌祭＝

かながわ校歌振興会

会長 山下東洋彦



◇皆さんは母校の校歌を歌えますか？

コロナ下の今年は雨に祟られながらも夏の高校野球は開催された。ところで2018年夏の大会は第100回記念大会、その始球式を務めたのは松井秀喜選手だ。彼と星稜高校野球部で同期だった朝日新聞の記者が面白い記事を書いたので引用する。

「おい！歌うぞ」。甲子園の記者席で観戦していた松井はニヤリと笑い、私の太ももを左手の甲で軽く叩いた。5日の開幕戦、母校が9-4で勝った直後だ。今の私は野球部員ではなく、会社員の43歳。隣はラジオの放送ブースで後ろには同僚たちの目がある。一瞬、恥ずかしさで「えええ!？」と思ったが、国民栄誉賞の受賞者を1人で立たせて歌わせるわけにはいかない。声量を落としつつ、ほぼ口パクで忘れかけていた校歌を体を反らして熱唱風で歌った。ところが隣の松井は、すらすらと、そこそこの声量で歌っている。「覚えてんの?」「あたりまえだろ」。質問を挟むのが邪魔と言わんばかりに返され、とうとう最後まで歌いきった。この瞬間、記念大会の始球式の依頼が最高の形で終わった。肩の荷が下り、すごくホッとした」

これには偶然が重なっていた。記者が松井選手に100回記念大会の始球式を頼んだのは、母校星稜高校がまだ県予選を戦っている時だったが、その後勝ち進んで甲子園に。しかも、主将が引いた組合せのくじ引きでまさに松井選手が始球式をする開幕戦を引き当て、そのうえ勝利して校歌を歌うことになったのである。

奇しくもこの原稿を書き始めた直後の新聞に、上記と全く同じ心境を綴った私と同年の方の投稿を発見したので載せておく。



スポーツニッポン 2018年8月6日



朝日新聞 2021年9月7日

私自身はと問われれば在籍した8校（2校は校歌が無い）の内4校もの校歌を歌える（4校しか歌えない？）。父の仕事の関係での転校もあり、在籍したのは函館市立柏野小学校、札幌市立山鼻小学校、世田谷区立東玉川小学校、同奥沢中学校、横浜市立根岸中学校、神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校、大学は東京大学、大学院はMITだが、この中で校歌を歌えるのは東玉川、奥沢、根岸、緑ヶ丘の4校ということになる。たまに口ずさむと、夫々に詠いこまれた川や海や山などの情景に加えて、皆と共に過ごした懐かしい日々がまざまざと浮かんでくる。

◇“青春かながわ校歌祭”・・・校歌は人生の応援歌

そもそも卒業後何十年もの間、頭の片隅にも無かった校歌に再び触れたのは横浜緑ヶ丘高校同窓会牧陵会の会長を引き受けてからだ。なるほど校歌の持つ力には大きなものがあると実感したのは「青春かながわ校歌祭」に関係するようになってからだ。

「青春かながわ校歌祭」とは、既に存在していた東京校歌祭に刺激を受けて発起し、平成18年（2006年）10月を第1回として現在まで続いている神奈川県下の高校同窓会によるお祭りだ。当時湘南高校湘友会会長を務めておられたA氏等の肝いりで「かながわ校歌振興会」（神奈川県立高校同窓会により成る）主催、神奈川県教育委員会共催、かながわ校歌祭参与会（参加同窓会所属県議会議員で構成）後援でスタート。

実行委員長同窓会として第1回湘南高校湘友会、第2回希望ヶ丘高校桜蔭会、以下横須賀高校朋友会、厚木高校戸陵会、横浜翠嵐高校翠嵐会、小田原高校樫友会、横浜平沼高校真澄会、横浜緑ヶ丘高校牧陵会・・・と続き、会場も横浜の青少年センタホール、よこすか芸術劇場、厚木市文化会館、神奈川芸術劇場・・・と実行委員長同窓会の地元を選んで開催してきた。22同窓会で在校生も含め約1400名の参加で始まった校歌祭だが、最近では28同窓会約2500名にまで発展してきている。数年前からはケーブルテレビのJ.com が記録し神奈川県下の他のCATV各社に配信放送までされるようになってきている。学校の統合・再編によって今の生徒に歌われなくなった校歌を卒業生が歌い継ぐケースや、普段なかなか集まる機会のない定時制高校の在校生・卒業生が校歌祭を通じて一体感を醸成するケースなど嬉しい限りである。因みに校歌祭の頭にある“青春”はサムエル・ウルマンの「青春とは…心の持ち方を言う」に通じる。



卒業生と在校生が一堂に



歌い終わって集合写真

◇校歌の由来・・・ラ・マルセイユーズ

学校に校歌があるというのは必ずしも世界共通ではない。では何故日本の学校に校歌があるのかという疑問を取り上げたのが2019年4月放送のNHK「チョコちゃんに叱られる」だ。チョコちゃんの正解は「学校に校歌があるのはフランス革命の真似をしたから」というもの。元東大教授渡辺裕氏の解説によると、近代化を急いでいた明治政府は、国民の理想の在り方を歌うことで自分が日本国民であるという愛国心を養うことをできるので考えた。明治政府が組織した「音楽取調係」はフランス革命の時に人々がラ・マルセイユーズを歌うことによって気持ちを統一していったということから、国家統治のために音楽が使えると考え、その後学校で歌う歌は文部省の許可が必要となり、愛国心や郷土愛を養う内容の校歌が作られていったという。因みに東大には校歌が無いが、「あの先生（渡辺先生）校歌も無いのに校歌の研究をしている!？」といじられていた。

一方、お茶の水女子大のHPによれば、前身の東京女子師範学校開校に当たり昭憲皇太后から下賜された御歌“みがかずば”に、雅楽の東儀季熙が明治11年に譜をつけたものが同校の校歌として歌い継がれているというから、校歌らしきものは明治政府の奨励以前に生まれていたようである。

◇“母校で校歌を歌い隊”・・・休校となった校庭で

私が「かながわ校歌振興会」の会長を引き受けて最初の第12回「青春かながわ校歌祭」は大きな意味を持つものとなった。新聞報道で、2011年3月の東日本大震災に伴う福島第一原発事故の被災地となった福島県の富岡高校関係者による活動を目にしたことが始まりだ。同校（バドミントンの桃田、渡辺、東野選手等の出身校）は事故発生以来県内外数か所へ分散避難しての授業を余儀なくされていたが、そんな中、元教職員、卒業生が生徒のいない校庭に集い、母校の再開を願って校歌を歌う活動を始めたということだった。その名は「母校で校歌を歌い隊!!」。これこそ我々校歌祭の活動趣旨に沿うものと、参加同窓会から寄付を募って福島から皆さんを招待することにしたのだ。

マスコミ各紙が「母校で校歌を歌い隊」の校歌祭への参加を記事として取り上げてくれたこともあって当日は福島県から首都圏に避難していた皆さんも集まって来た。「あ～○○ちゃん元気だった?」「△△さん本当に久しぶり!!」等の言葉があちこちで飛び交い、一部の方々は舞台上上がって「歌い隊」の皆さんと目に涙を浮かべつつ声高らかに富岡高校校歌を歌い上げた。私も含めて会場全体が感動に包まれた瞬間だった。





福島からの“母校で校歌を歌い隊”の皆さんと首都圏に避難している方々が校歌祭で再会

◇三年連続中止の“青春かながわ校歌祭”

令和元年（2019年）10月15日「青少年センターホール」で予定していた第14回は大型台風の関東地方直撃により開催2日前に急遽中止、続く2020年10月10日「よこすか芸術劇場」で予定の第15回も新型コロナウイルス蔓延、緊急事態宣言の発出という事態を受け6月にこれまた中止を決定した。

さらに前年から続くコロナの影響下、本年10月2日「大和市文化創造拠点シリウス」で開催を予定していた第16回については、規模を縮小（合唱マスク着用）しての開催、一堂に会することを避けたバーチャルでの開催等を模索したものの結局中止せざるを得なかった。三年連続の開催中止ということで、今後についての危機感が無いといえは嘘になる。

◇校歌祭の灯を次の世代に・・・

10代の在校生から90歳を超える大先輩迄が同じ舞台上上がって声高らかに校歌や応援歌を歌い上げる（音楽性豊かな高校、蛮声を張り上げる高校と歌い方は色々）のが校歌祭だが、そもそも最も熱心な参加者だった旧制中学、高女出身者の数が段々少なくなっているだけに若い世代へ歌い継いでいくことの必要性を痛感している。

昨今の卒業式では「旅立ちの日に」とか「卒業写真」等卒業生たちが選んだ歌が歌われ（これでも少し古いが・・・）、我々世代の定番だった「仰げば尊し」は歌われない。“青春かながわ校歌祭”では参加者全員で歌う歌が三つ。幕開けに「箱根八里」、午後の部の

最初に「神奈川県民歌」、そして締めは勿論「上げば尊し」だ。そんな中若い世代も校歌祭で初めて触れる「上げば尊し」を先輩と共に心を込めて歌っている。

幸いなことに学校長も校歌祭を通じての在校生と卒業生との交流の重要性に理解を示しており、県教育委員会の協力も心強い。

2016年には10年記念誌を発行し、発足時の苦勞からその後の発展の歴史を中間報告としてまとめた。2019年には校歌祭のシンボルとして“校歌祭の旗”を作製した。その年10月の校歌祭の最後にはオリンピックの旗同様、第14回実行委員長から次の第15回実行委員長へ引き継ぐ予定だったが、残念ながら未だにお披露目が出来ていないのが実情だ。



青春かながわ校歌祭のシンボル

来年10月15日に予定している第17回“青春かながわ校歌祭”の閉会に際しては、舞台の上で第17回実行委員長から第18回実行委員長へと校歌祭の旗の引継ぎが実現し、さらに第19回、20回と繋げていけることを確信している。

(筆者注)

- ① 筆者は2024年2月のかながわ校歌振興会総会で会長を退任、顧問就任。
- ② 校歌祭はその後次のように引き継がれてきている。第20回、第21回についても夫々の同窓会に働きかけて目途を付けたうえで次期会長に引き継ぎを完了した。

開催回	開催年	実行委員長同窓会	会場
第17回	2022年	追浜高校うしお会	よこすか芸術劇場
第18回	2023年	鶴見高校鶴陵会	横浜青少年センターホール
第19回	2024年	平塚江南高校江南同窓会	ひらしん平塚文化芸術ホール
第20回	2025年	川崎高校柏葉会 (予定)	(未定)
第21回	2025年	吉田島高校同窓会 (候補)	(未定)